富士山麓からの発信

『マスマヨバーガー』の製作実習

久保田とも子さんの指導で新特産品をコラボ開発

『マスマヨバーガー』

『富士宮の特色ある商品にしたい』

富士宮高校会議所が新商品開発

富士宮高校会議所（中村真緒会頭）は12日に富岳館高校食品加工室で、和菓子処三代目の久保田とも子さんの指導で、久保田さんと共に高校会議所がニジマス活用食品作りのコラボで開発した『マス（鱒）マヨバーガー』の製作（調理）実習を行った。富士宮市が日本一の生産量を誇るニジマスを主素材にした『マスマヨバーガー』は、久保田さんの発案で高校会議所のメンバーが若者にも楽しんでもらえるハンバーガー式の商品を作ろうと企画して開発されたもので、製作調理実習は『マスマヨバーガー』の普及に意欲を新たにする場ともなった。男子高校生も参加した実習では、久保田さんの手ほどきを受けながらニジマスを三枚におろし、味付けをして油で揚げてバーガー用のパンでマヨネーズを合えて作ったソースやバターを絡めたニジマスとサラダ菜・野菜を載せて『マスマヨバーガー』を完成させた。

女性メンバーらも「美味しそう。これを富士宮の特色ある商品にしたい」と笑顔を重ねていた。

富士宮市内の5高校の生徒たちが連携して、高校生の視点と行動力で地域振興や地方創生・商店街再生・地域ビジネスの手法について行動して実践を通して学び、アイデアを発信している「富士宮高校会議所」は10日には、役員メンバーとアドバイザーでもある富士宮やきそば学会の渡辺会長と共に富士宮市役所を訪れ、須藤市長に日本政策金融公庫の主催で開かれた「第5回高校生ビジネスプラン・グランプリ」でベスト100に入賞したことなど最近の活動実績を報告した。

「若者視点の地域振興・活性化」を目的にスタートした高校会議所は、今年5月に日本高校会議所設立を目指した事業まで進め、全国に高校生のまちづくり実践の情報を発信している。

市長表敬訪問では5月4日に富士宮市民文化会館で日本高校会議所設立の第1回総会を開くことなどを報告し行政の協力を求めたスタッフに、須藤市長は高校会議所のまちづくり地域振興活動が成果を挙げていることを称え、「さらなる活躍を期待します」と励ましを語りかけてもいる。

三枚におろしたニジマスを油で揚げて

男子スタッフも包丁を上手に使って

市長表敬訪問で活動の報告も行った

『マスマヨバーガー』は美味しいですよ」とスタッフ

随想

小泉　柳澤　和彦

母はどちらかと言えば「導火線」の短い人だった。漁師の気性からすると当然と思う。

去年（平成二十九）の正月、二人欠けの妹弟夫婦と姪らが、新年の挨拶旁、疎遠を謝しがてら訪れた際でも、「挨拶は受けたで、気をつけて帰るさ」。も少し話をしたげな気持の連中とは裏腹に、ズバリといげつなく（薄情）帰宅を催促した。必然、連中らは〝行けっ茶〟もそこそこに、早々と立ち去った。

私はもう幾度となくこうした振る舞いに、内心では済まないと感じるが、退散してくれると正直言ってホッとしたものだ。

遠路の客に、もう懐かしさとか、まして新鮮味など欠片も感じなくなっているな、と私は台所に退いた母に苦笑してしまう。

「折角の味噌汁が冷えてしまったなあ」などと愚痴の方に気持を傾けたものだった。

二十五年前亡くなった父が元気だった日頃、時たま一泊の旅へ誘っても「どっち向いても山と海と川の景色じゃぁ富士宮とそれ程の違いはない」。ズバリ言って即座に断る。「おまえのように自然の良さの分からん奴は、つまらん。旅の相手にゃ全く不向きもいいとこだ」。夫婦はよくこんな口喧嘩し合ったものだった。

私は母は家が一番いいのだろうと母の気持をおもんばかったのだった。

「力をこめて、今年の一歩」

ところで前出の味噌汁の話だが、味噌汁は「おふくろの味」と百人が百人口を揃えて言う。おやじの味、なんか言うひとはまづない。

故郷を遠く離れて暮らす人のそんな気持が私にはよく理解される。もうざっと三十年近く前になるが、現職時代、富士宮の地から北関東の地へ赴任生活をした経験がある（岳陽新聞社元社長田中昌次氏存命の時代）。

赴任地は関東の名山、裾峰筑波山が指呼の間にそびえていた。そして、つくば学園都市は生活圏であった。外国人も多く生活していた。今、富士宮市内でも時折外国人を見掛けるが、つくばは日常的だった。今、見掛けたりするととても親しみを覚え、つい「ハブァ、ナイスデー」と一言。すると大概は「オー　サンキュー」と返事してくれる。

赴任地のスーパーでは色々な産地の味噌を買い求めて食べた。産地物は殊に故郷の山富士山に近い産地の味噌を物色した。思わず知らず、言わず語らず、故郷へ思いを馳せていたと言うことである。頭の片隅では〝ふるさとの山ありがたきかな富士の山〟だった。

母の味噌汁は勢いよく沸騰する熱湯の中に七、八本ぐらい掴んだ煮干し（ヒシコイワシ）をガバッと突っ込んで、ダシを取った。

再び鍋の中が煮立つと煮干しを取り出し、魚の大好きな母は醤油をまぶして食べた。

煮立った熱湯に固めの具を先に投入、なめこや豆腐、きざみネギなどを味噌と同時に入れて仕上げた。しかし、去年の早春、母の味噌汁は母が病に臥した時から絶え果てた。私がこしらえるようになると、ダシ汁は煮干しではなく、スーパーの、かつお風調味料である。母が自慢の「おふくろの味」は、その臥した早春の或る日頃、百五歳を一期にいなくなり、我が家からなくなってしまった。

ところで、私が自分でこしらえる味噌汁の味は、具にもよるものの一度として同じ味に仕上がったことがない。それは流行歌に一つとして同じ歌（曲）が存在しないに似ている。おもしろいと思う…。

行ってしまった／遠くの方へ
すぎた日頃は／良い日であった
すぎた日頃は／帰らぬきのう
くやむのやめよう／私のこころ
すぎた日頃は／良い日であった
それより一歩／今年の一歩
力をこめて／踏み出そうと
水仙の葉の／先までも／透きとうる
あの凛とした／すがたのように
力をこめて／踏み出そう—

移動図書館　ひばり号巡回

▽16日＝淀橋区民館駐車場（10時～10時30分）西保育園（10時45分～11時30分）あすなろ園（9時45分～10時15分）粟倉保育園（10時30分～11時）富士根北小学校（14時30分～16時）人穴小学校（14時30分～15時30分）

※悪天候や各施設の都合等により巡回を中止したり巡回日時を変更したりする場合があります。